

河嶋聰史氏

有限責任あづさ監査法人  
名古屋事務所長

袖川兼輔氏

EY新日本有限責任監査法人  
名古屋事務所長

水谷洋隆氏

PwCあらた有限責任監査法人  
名古屋事務所長

小笠原修文氏

日本公認会計士協会東海会  
会長

稻垣靖氏

## 日本公認会計士協会東海会 公認会計士の日 4大監査法人名古屋事務所長 特別座談会

# 前例踏襲を打ち破り新たな価値創造

## 監査の高度化や 企業支援に注力

会計監査を通じて企業の健全な発展に寄与している公認会計士。近年は組織内会計士や中小企業支援、非財務情報の保証など社会の一環に応じて活躍の場を広げている。日本公認会計士協会の地域組織・東海会の稻垣会長と4大監査法人の東海地区的代表は、監査業務の高度化や経営者に助言するアドバイザリー業務の拡充、人材育成を強化する考え方以致。前例にとらわれず、これまでの知見と経験を生かして新たな価値を創造していくと語り合った。



稻垣 日本公認会計士協会が昨年作成した「ビジョンペーパー2023」では、これからの方針について①公認会計士の活躍の場の拡大②監査業務の再評価③協会の機能強化を論点に挙げました。特に公認会計士の本来業務である監査業務の再評価、深化について、各監査法人はどうに考えていますか。

小笠原 監査業務の高度化・効率化のためにテクノロジーの活用を進めています。そして、クライアントに対して高度なデータ分析によるインサイトの提供にもつなげています。

河嶋 財務諸表が適正か検証して意見を表明するだけでなく、公認会計士の知見に基づく助言にも力を入れています。クライアントを深く理解しているからこそ提供できる付加価値があるはずです。

袖川 不正の発見も社会が期待する公認会計士の役割だと考えています。一層深く理解しているからこそ提供できる付加価値があるはずです。

水谷 公認会計士は様々な役割が期待される一方で人材が不足しています。デジタル化による業務の効率化や有資格者ではないアシスタントの活用などで時間を生み出す必要があります。それが監査業務の高度化につながります。

稻垣 グローバルに事業展開する企業が増える中、国際監査業務の一環も高まっています。

小笠原 特に東海地区は自動車産業が盛んで、グローバル企業が数多くあります。

PwCあらたは東海地区に所在する様なグローバル企業の監査を担当しており、中には数百社のグループ会社を擁する監査先もあります。当法人の使命は、グループ監査を通じて東海地区あるいは日本を代表するようなグローバル企業を支えることです。

そのために各国メンバーファームの監査チームと密接に連携し、名古屋事務所がリードーションを発揮してワントームで効果的かつ効率的な監査を実践しています。

稻垣 監査業務以外の事業に対する社会の関心も高まっていると感じています。

河嶋 全国約30拠点で地域に根差したサービスを提供しているトーマツは、地域課題の解決を支援しています。2021年に「地域未来創造室」を設置。中小企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)の支援や経営人材の育成、スタートアップのサポート、産官学金連携などを通じて様々な技術や知的財産の事業化を後押ししています。例えば東海地区的企業と全国のスタートアップをマッチングする取り組みでは、老舗の中小企業が持つ技術やノウハウとスタートアップの斬新なアイデアを結び付けて新しい事業を創出します。

水谷 EY新日本も企業支援に取り組んでいます。21年に「名古屋企業成長サポート

## 未来展望し 「人」育てる

袖川 私は7月からあづさ名古屋事務所の所長を務めています。大切な拠点を守り、発展させるには「人」を育てることが肝心です。公認会計士の活躍の場が広がるにつれて求められる人材も多様化しています。

水谷 名古屋企業成長サポートセンターの活動は人材育成にもつながります。実際の経営課題に取り組むことで公認会計士としての視座が高まります。

小笠原 國際監査業務を担う人材を育てるため、研修や海外赴任などの機会を拡充しています。海外から駐在員を受け入れるため、名古屋事務所がリードするだけでは社会から取り残される恐れがあります。クライアントを支えるには、まず私たち公認会計士が破壊・創造・継承に取り組み、前例にとらわれることなく変化する環境に合った新たな価値を生み出していくしかねばなりません。

河嶋 国民経済の健全な発展に寄与することができる環境づくりを心がけています。

袖川 1人ひとりの適性に応じて、グローバル、IT(情報技術)、サステナビリティといった各分野の真のプロフェッショナルを育てたいと考えています。それが多様な人材をそろえることにつながります。

河嶋 日本や地域の未来を考えたとき、社内の人才だけでなく次代を担う若者に対する教育も必要ではないでしょうか。学校教育では経営やファイナンスを学ぶ機会が少ないのが実情です。

稻垣 同感です。東海会は小中学校での会計基礎教育などについて全国に先駆けて取り組みを推進しています。今後も拡充していく予測が困難な「VUCA(ブーカ)」の時代には、過去のやり方をそのまま踏襲するだけでは社会から取り残される恐れがあります。クライアントを支えるには、まず私たち公認会計士が破壊・創造・継承に取り組み、前例にとらわれることなく変化する環境に合った新たな価値を生み出していくしかねばなりません。

河嶋 研究会議では、毎年「VUCAの時代に公認会計士が取り組むべき課題」としてVUCAの時代に公認会計士が取り組むべき課題を決まりました。先行き不透明で将来予測が困難な「VUCA(ブーカ)」の時代には、過去のやり方をそのまま踏襲するだけでは社会から取り残される恐れがあります。クライアントを支えるには、まず私たち公認会計士が破壊・創造・継承に取り組み、前例にとらわれることなく変化する環境に合った新たな価値を生み出していくしかねばなりません。

河嶋 同感です。東海会は小中学校での会計基礎教育などについて全国に先駆けて取り組みを推進しています。今後も拡充していきます。

開催にあたり  
全国研究大会実行準備委員長  
大島嘉秋氏

2024年9月に日本公認会計士協会研究大会がここ名古屋で16年ぶりに開催されます。全国から1000人を超える会計士が一堂に会し、日ごろの研究成果を共有します。大会の主題は、「破壊・創造・継承。前例踏襲を打ち破れ。」に決定しました。不安定、不確実、複雑、曖昧な時代に会計士が果すべき役割を議論します。非財務情報開示に関する実務的な対応、会計士が行政に対してできる貢献など10議題で活発なやりとりが行われます。記念講演は、徳川宗家19代に就任された徳川家広さんにお願いしました。大会においてこの地域の魅力、実力、行動力を余すところなく、会計士に伝えていきたいと考えています。

jicpa 日本公認会計士協会 東海会

破壊・創造・継承。  
前例踏襲を打ち破れ。

~ VUCAの時代に公認会計士が取り組むべき課題 ~

第45回 日本公認会計士協会研究大会  
名古屋大会2024

開催日 2024年9月12日(木) 会場 名古屋マリオットアソシアホテル

7月6日は  
公認会計士の日

信頼の力を未来へ  
jicpa 日本公認会計士協会 東海会

<https://tokai.jicpa.or.jp>

広告

企画・制作=日本経済新聞社  
Nブランドスタジオ

